

第4回 フォーラム in くるめ ～筑後地域からの発信～

テーマ「障害児者の支えになるもの

～知ることがつながることの第一歩～

日時

2010年2月7日(日) 10:00～17:00(受付:9:30～)

会場

石橋文化センター (大ホール) 〒839-0862 福岡県久留米市野中町 1015
TEL 0942-33-2271 / FAX 0942-39-7837
(定員:800名)

主催

フォーラム in くるめ実行委員会

後援

福岡県 久留米市 久留米市教育委員会 筑後市 筑後市教育委員会 小郡市 八女市 大牟田市 うきは市 柳川市 朝倉市 筑前町 広川町 大木町 大刀洗町 大川市 みやま市 久留米市介護福祉サービス事業者協議会 福岡県社会福祉協議会 福岡県社会福祉士会 福岡県精神保健福祉士協会 福岡県社会就労センター協議会 福岡県知的障害施設協議会 福岡県身体障害者施設協議会 久留米市医師会 久留米商工会議所 久留米市社会福祉協議会 朝日新聞 西日本新聞 毎日新聞 読売新聞西部本社 久留米日日新聞 (順不同)

お申し込み

専用参加申込書に必要事項をご記入の上、郵送/FAX/E-mailにて事前にお申し込み下さい。お申し込みの方には、チケットを送付いたします。

申込み締切り

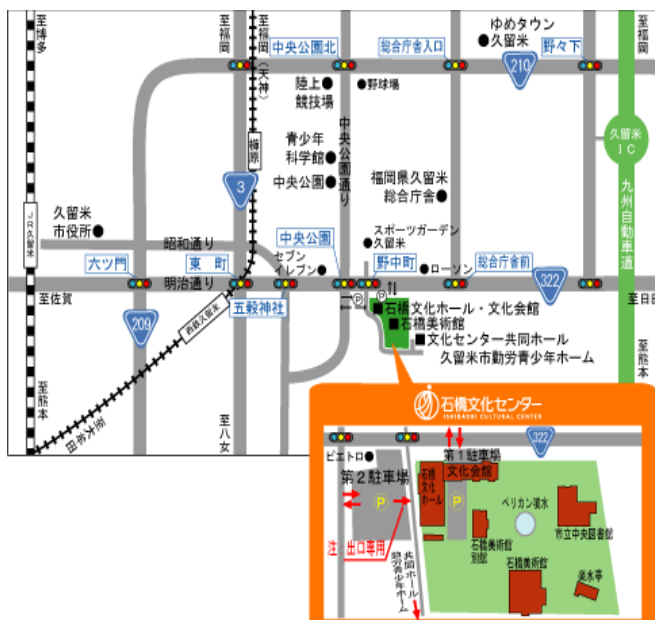
2010年2月5日(金)まで ※定員になり次第締切らせていただきます。

お問合せ

フォーラム in くるめ実行委員会

〒830-0071 福岡県久留米市安武町武島 468-2(「出会いの場 ポレポレ」内)
TEL/FAX: 0942-27-2075 E-mail: h-polepole@ktarn.or.jp

会場(石橋文化センター)へのアクセス



【高速バス】

福岡空港より西鉄久留米駅まで西鉄高速バスで約50分

【電車】

JR博多駅よりJR久留米駅まで、特急で約30分、快速で約40分
西鉄福岡(天神)駅より西鉄久留米駅まで、特急で約30分、急行で約40分

【バス】

JR久留米駅より約15分、西鉄久留米駅より約5分
西鉄バス 1・7・8・9・20・22・25 系統。「文化センター前」下車。
主な行き先は、「吉井」「田主丸」「信愛女学院」など
※文化センター経由をご確認ください。

【徒歩】

西鉄久留米駅より約10分

【車】

久留米インターより約10分(距離約3.5km)
第1駐車場/普通車66台・身障者用4台(有料)
第2駐車場/普通車155台・バス5台(有料)

【お問い合わせ】

〒839-0862 福岡県久留米市野中町 1015
TEL 0942-33-2271 / FAX 0942-39-7837

第4回

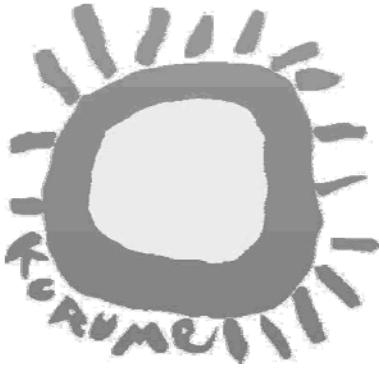
障害があるからこそ ここで暮らす そんなまちにしたい・・・

フォーラム in くるめ

～筑後地域からの発信～

テーマ「障害児者の支えになるもの

～知ることがつながることの第一歩～



2010年2月7日(日)

9:30 受付開始～
17:00 終了予定

■参加費: (一般) 1,500 円
(障害者) 500 円

■会場: 石橋文化センター (大ホール)

■定員: 800 名

〒839-0862 福岡県久留米市野中町 1015
TEL 0942-33-2271 / FAX 0942-39-7837

9:30～

開場・受付開始

10:00～10:10

開会式

10:15～12:00 セッションⅠ

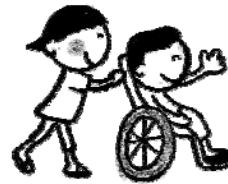
『声なき声に耳をかたむける』

12:45～14:45 セッションⅡ

『これからの制度のあり方を考えよう』

15:00～17:00 セッションⅢ

『制度外での支えあいを知り、つながっていこう』



○お申し込み

専用参加申込書に必要事項をご記入の上、郵送/FAX/E-mailにて事前に申し込み下さい。申込みの方には、チケットを送付いたします。

※ 会場での支援(移動用イス・手話通訳・要約筆記等)・託児(おやつ代込み 500 円)が必要な方は事前にお問合せください。なお、託児については定員15名までとなっておりますので、お早めにお申し込み下さい。

○申込み締切り

2010年2月5日(金)まで

※ 定員になり次第締切らせていただきます。
※ 当日、会場受付で当日券の販売もあります。

○お問い合わせ先

〒830-0071

福岡県久留米市安武町武島 468-2

フォーラム in くるめ実行委員会

TEL/FAX 0942-27-2075

E-mail h-polepole@ktarn.or.jp

第4回 フォーラム in くるめ ～筑後地域からの発信～

テーマ「障害児者の支えになるもの～知ることがつながることの第一歩～」

障害児者が地域で生活する上で支えとなるものは何でしょうか。

今まで気づいてなかった声なき声をあげていくことで当事者のニーズを知り、制度上のサービスや地域の方たちの何気ない気遣いで生きづらさを抱えている方たちの生活をよりよいものに行っていることを知り、そういう支えあい自分たちでも出来ることを考えるきっかけとしたいと思います。

実行委員長 佐々木 崇次

10:15～12:00 セッションⅠ

『声なき声に耳をかたむける』

私たちは声なき声に耳を傾けてきたでしょうか？

実際に声に出せない方々の声や思いを聞いたことがありますか？

思いを本当に聴いていますか？理解しているつもりになっていませんか？

障害の有無に関係なく、一人の人として人間として、社会がその『声』に耳を傾け、生きづらさを知り、力関係で封じ込めてきた思いに気づき、共に生きていく社会になることを願い、当事者の『声』にのせた思いをたくさんの人に聞いてほしい。

シンポジスト

坂本 喜教さん（NPO 法人くるめ出逢いの会 世話人、精神障害当事者／久留米市）

松藤 由美さん（自閉症児の親／久留米市）

田中 嘉代さん（重度重複障害児の親／久留米市）

宮原 太一さん（ボランティアグループ「寄せ鍋」、内部障害・言語障害当事者／筑後市）

コーディネーター

卜部 善行さん（筑後市社会福祉協議会／筑後市）

12:45～14:45 セッションⅡ

『これからの制度のあり方を考えよう』

「障害者自立支援法」がはじまって4年目に入りました。周りを見渡せば、障害が重くても制度を上手に利用してケアホームで暮らしながら一般就労している方もいれば、制度を知らずに使えない人や使いたくても制度（サービス）が不足して使えない人もいる、そんな各地域の現状が見えてきました。

制度を取り巻く行政、当事者、事業所等さまざまな立場の方から制度についての「現状と課題」を伺い、障害当事者の権利が保障され、思いが実現でき、障害当事者が「この町で生きていきたい」と思えるような、今後の制度のあり方について考えます。

シンポジスト

稲葉 好晴さん（厚生労働省 障害福祉課 課長補佐）

國武 竜一さん（うきは市社会福祉協議会／うきは市）

田島 ゆかりさん（八女地区障害者等相談支援センター リーベル センター長／八女市）

西村 郁子さん（知的障害者の親／久留米市）

コーディネーター

大場 和正さん（NPO 法人大牟田市障害者協議会 事務局長、身体障害当事者／大牟田市）



大場 和正(NPO 法人大牟田市障害者協議会 事務局長)

1951年生まれ。2歳の時、ポリオにより重度の障害者となる。障害者施設に入所し、28歳の時に働く場作りに取り組む。小規模作業所を立ち上げると共に、障害者施策の充実に取り組む。市議会議員として福祉の町作り推進。退職後、NPO 法人大牟田市協議会事務局長に就任、現在に至る。

『制度外での支えあいを知り、つながっていこう』

制度以外で障害者を支えるものとして”居場所”、”集い場”、”仲間”など「つながり」や「支えあい」がよく言われます。高齢化、貧困の拡大など生きづらさを抱える人の急増、人と人との関係性が希薄になっている日本において、「つながり」や「支えあい」が必要なのは、障害者だけなののでしょうか？高齢者は？ホームレスなど制度に当てはまらない人たちは？はたして「他人事」なののでしょうか？

筑後地区をはじめ全国で地道に、先駆的に「自分事」として制度以外で「つないだり」、「支えあったり」など実践している方々、「これからやってみよう」としている方々にお話いただき、これからの新しい支えあいの形についてみんなでお考えください。

シンポジスト

富樫 匡孝さん（NPO 法人自立生活サポートセンターもやい／東京都）

鈴木 恵子さん（ボランティアグループ すずの会 代表／神奈川県）

笠 恒久さん（身体障害当事者／久留米市）

三原 圭子さん（地域の家 三原さん家／久留米市）

磯田 重行さん（NPO 法人 WRAP 研究会、当事者／久留米市）

コーディネーター

田町 菜穂子さん（NPO 法人 ル・バトー／久留米市）



富樫 匡孝（自立生活サポートセンターもやい）

1978 年生まれ。北海道出身。2006 年に自身がホームレス状態を経験し、〈もやい〉へ相談。その後生活を立て直し、スタッフとして活動を始める。現在は生活保護の申請同行や、電話相談、その後のアフターフォローなどを担う傍ら、若者当事者のための居場所「Drop-in こもれび」を主催するなど、自身の経験を元に活動に携わる。共編著、「若者と貧困」（明石書店）。共著、「貧困のリアル」（飛鳥新社）。

※ 「自立生活サポートセンターもやい」は、年末派遣村の村長 湯浅誠さんが代表しており、ホームレス状況にある方が自立した生活を始めるにあたり、必要となるアパート入居時の連帯保証人提供の相談を定期的に実施。地域社会への復帰をサポートしています。



鈴木 恵子（ボランティアグループ すずの会 代表）

13年前、川崎市で主婦仲間と始めた在宅介護支援のボランティア活動が、全国屈指の「ご近所力」で注目を集める。学会からも「都市における地縁再生のモデル」として認められた。

孤立しがちな高齢者が集えるデイサービスの開催、外出の介助など、活動は多彩。59人のボランティア会員を束ね、近隣住民の抱える問題を、行政を巻き込みながら解決していく。その仕事ぶりから、「スーパー世話焼きさん」と呼ばれることも。「近所の気になる人に声をかけ、少し手を貸す。そんな関係が地域を住みやすくする。行政ばかりに頼る時代ではありません」（読売新聞から引用）

